

会場 江戸川区立西葛西小学校

参加者：山下校長、櫻井、斎藤直、斎藤正、大竹、鈴木、吉田、関、河口、柳沼、北川

山下担当常任理事より

夏季合研の成果と課題をもとに研究を深めていかなければならない。

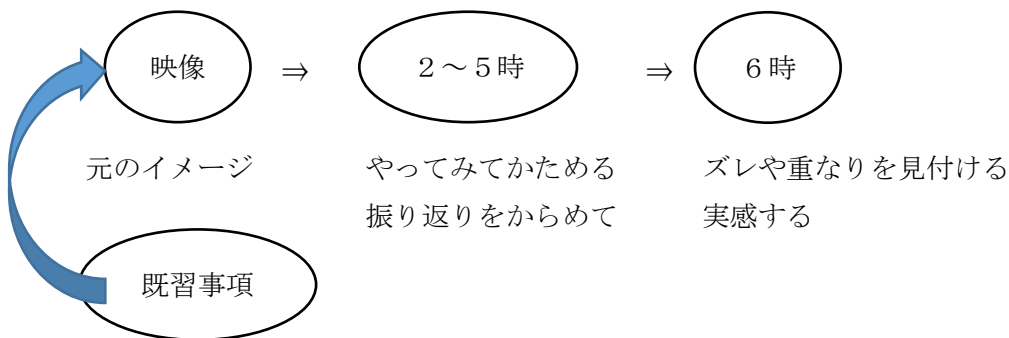
オリエンテーションのインパクトは強いが、それだけに頼らず学習過程を充実させていく必要がある。  
形式的授業評価、児童の変容、毎時の様子を根拠にして説明していかなければならない。

アンケート自由記述より

- ・ スイム駅伝の説明が必要
- ・ 教員の働き方を明確にさせる必要がある（2～5時）

**視点1**

獲得型の確認



⇒泳法に対しての声かけ・全体で共有する内容

各時間の資質・能力ごとの声かけ  
C児童に対する具体的な手立て

→ 指導例として提示する

- ・ 直接的すぎない
- ・ 問いかけ
- ・ 良い例を見せる
- ・ 比較
- ・ すすめる
- ・ 認める場づくり
- ・ Cの子の伸びを認める

ほめる  
のびる  
きっかけ  
作り

ひな型…北川      1時…鈴木      2時…柳沼      5時…正樹  
6・7時…直道      10時…河口・吉沢

水谷先生より

言葉を大切にしていける必要がある。統一を図ることで、誰にでもわかる研究になっていく。  
また、この学習方法の中で泳力の高い子は何を学べるのか、そして泳力の低い子はどのように学習が進められるようにしていけるのかについて教師側の手立てが必要である。ことに、新学習指導要領では「運動が苦手な児童への配慮」として細かく記述されている。水泳系領域部会としても明らかにしていきたい。

今後の予定

8 / 31 (木) 実証授業      9 / 3 (日) 水泳大会 (続けて長く平泳ぎ) (北川…説明、千葉…模範泳)  
9 / 5 (火) 事前授業      提案…櫻井、プレゼン…大竹      9 / 7 (木) 実証授業当日

ひな型

「つかむ」段階の指導例 (○ / 10)

- ①ねらい
- ②展開

学習活動	◎評価○教師の支援
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"><ul style="list-style-type: none"><li>○</li><li>○</li><li>○</li></ul></div>	

文責 北川 修司